

みずいろはうすにおける支援プログラム・支援の方針

【5領域】 ①健康・生活

a ねらい

- (a) 健康状態の維持・改善
- (b) 生活習慣の形成
- (c) 基本的な生活スキルの獲得

b 支援内容

- (a) 健康状態の把握

健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。また、意思表示が困難である児童の障害特性および発達の過程等に配慮し、一人ひとりの心身の異変に気付けるように、きめ細かな観察を行う。

- (b) 健康の増進

食事・排泄等の基本的な生活リズムを身に付けられるよう支援する。また、病気の予防や安全への配慮を行う。

- (c) 基本的な生活スキルの獲得

身のまわりを清潔にし、食事・衣類の着脱・排泄等の生活に必要な基本的スキルを獲得できるよう支援する。

【5領域】 ②運動・感覚

a ねらい

- (a) 運動・動作の向上
- (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用
- (c) 感覚の総合的な活用

b 支援内容

- (a) 運動・動作の基本的技能の向上

日常生活動作の基本となる姿勢保持や上下肢の運動機能の改善・向上、筋力の維持・強化を図る。

(b) 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合があれば、様々な補助用具等の補助的手段を活用し支援していく

- (c) 感覚の活用

視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。

- (d) 個々に応じた特性への対応

感覚や認知の特性(過敏や鈍麻)を踏まえ、個々に応じた対応・支援を行う。

【5領域】 ③認知・行動

a ねらい

- (a) 認知の発達と行動の習得
- (b) 空間・時間・数等の理解と習得
- (c) 対象や環境への適切な認知と行動の習得

b 支援内容

- (a) 感覚や認知の活用

視覚・聴覚・触覚等の感覚を活用し、認知機能の発達を促す支援を行う。

(b) 日常生活場面の中で、数・大小・色等の理解、形や重さの違いの習得のための支援を行う。

- (c) 認知の偏りへの対応

個々の特性を適切に把握し、支援者の関わり方の指導や調整を行っていく。また、保護者に対しても具体的な助言や支援を行っていく。

- (d) 行動障害への予防及び対応

感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害に対して事前に予防策を講じ、適切行動獲得に向けた支援を行う。

【5領域】 ④言語・コミュニケーション

aねらい

- (a)言語の活用
- (b)言語の受容及び表出
- (c)コミュニケーションの基礎的能力の向上
- (d)コミュニケーション手段の選択と活用

b支援内容

- (a)言語の活用
障害特性に応じた、言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。
- (b)受容言語と表出言語の支援
相手の意図を理解したり、自分の気持ちを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。
- (c)指差し・身振り・サイン等の活用
個々の発達段階に応じた指差し・身振り・サイン等を用いて、意思の伝達ができるよう支援する。
- (d)読み書き能力の向上のための支援
発達障害の児童等、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。
- (e)コミュニケーション手段の活用
手話・点字・文字・絵カード等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。

【5領域】 ⑤人間関係・社会性

aねらい

- (a)他者との関わりの形成
- (b)自己の理解と行動の調整
- (c)仲間づくりと集団への参加

b支援内容

- (a)アタッチメント(愛着行動)の形成
他者との関係を意識し、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。
- (b)模倣行動の支援
遊び等を通じて他者の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを促していく環境調整および関わりを実践していく。
- (c)感覚運動遊びから象徴遊びへの支援
感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びの環境を整える。その上で、次の段階として見立て遊びやごっこ遊び等の象徴遊びへ促すための関わり方を提案し実践していく。その中で徐々に社会性の発達を支援する。
- (d)一人遊びから共同遊びへの支援
周囲に児童がいても無関心である一人遊びの状態から、支援者が介入しながらスモールステップでの社会性の発達を支援する。
- (e)自己の理解とコントロールのための支援
自分の出来ること・出来ないこと等、自分の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるようになるための支援を実践していく。
- (f)集団への参加への支援
児童の発達段階や特性に応じた関わり方の提案を行い、児童自らが手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。